

人権教育を通じて身につけさせたい力 10 (人権問題解決に向けた意欲と実践力)

自らの未来を切り拓く力

○自分に自信を持つ力

【評価 知識的側面 ①】

低学年：自分らしさを知り、自分のよさに気づく。

中学年：自分や友達のよさを知り、互いに励まし、認め合うことができる。

高学年：自分がかげがえのない存在であることを知り、自己肯定的な生き方ができる。

○差別を見抜く力

【評価 知識的側面 ②】

低学年：友達を傷つける言葉や態度がわかる。

中学年：身の回りにあるまちがいや誤った考えを見抜く。

高学年：部落差別をはじめとする差別の不合理や矛盾に見抜く。

○自ら学ぶ力

【評価 知識的側面 ③】

低学年：読む、書く、聞く、話す、自分の意志を伝える。

中学年：仲間と共に高め合っていこうとする。

高学年：将来の夢や希望を実現していくことのできる確かな学力を身につける。

○友達（他者）の思いを感じたり、考えたりすることができる力

【評価 技能的側面 ①】

低学年：友達の気持ちを感じ、自分のこととして考えることができる。

中学年：学級の中の決めつけや偏見に気づき、自分のこととして考えることができる。

高学年：学校や社会の中にある矛盾について考え、相手の立場に立って考えることができる。

○自分の思いが語れる力

【評価 技能的側面 ②】

低学年：楽しいことや自分のしんどい思いを学級の中で言うことができる。

中学年：相手の気持ちを考えながらわかってもらえるように言うことができる。

高学年：自分と相手の両方を考え、相手を尊重しながら自分の言いたいことを伝える。

○自分で考え、自分で決める力

【評価 技能的側面 ③】

低学年：知りえたことをもとに自分の意志をはっきりさせることができる。

中学年：様々な経験や情報をもとに、自分の考えをまとめ、意思表示できる。

高学年：自分で選択するとともに、民主的に意志決定し、行動できる。

○豊かな感性を磨く力

【評価 態度的側面 ①】

低学年：助け合い、励まし合う仲間がいることの楽しさ、すばらしさを感じる。

中学年：仲間の思いに共感し、喜びや間違ったことへの怒りを素直に表すことができる。

高学年：人の喜び・怒り・悲しみに共感し、共に考えることができる。

○自他の人権を大切にしようとする力

【評価 態度的側面 ②】

低学年：相手の気持ちを考えて言動できる。

中学年：相手の気持ちを考えて、自分も友達も大切にできる。

高学年：子どもの権利条約など自分や友達の権利について理解する。

○ちがいを認め合い、互いに磨きあい、共に高め合う力

【評価 態度的側面 ③】

低学年：友達の良いところを見つけ、良さを認め、仲間がいることの楽しさを感じる。

中学年：仲間の立場に気づき、助け合いや思いやりを持って行動できる。

高学年：ちがいを豊かさにとらえ、やさしさとそれゆえのきびしさを持った言動ができる。

○差別と不正を許さず、つねに人権尊重と正義の立場に立てる力

低学年：いじめや仲間はずしを見逃さない。【評価 態度的側面 ④】

中学年：許せない差別事象に立ち向かっていく力をつける。

高学年：許せない差別事象を解決しようとする力をつける。

同和問題をはじめとする様々な人権問題の解決へ向けて意欲と実践力を養う